

「北海道・北東北の縄文遺跡群」 世界遺産登録への期待

平成30年12月8日（土）

- ◆時間 13:00～ 受付開始 13:20～ 開会行事
- ◆会場 岩手教育会館 大ホール(盛岡市大通1丁目1-16)
- ◆定員 300名 **入場無料（事前申込不要）**

第1部 基調講演 (13:55~14:45)

「縄文は生きている」
～日本列島人の精神文化の源流～
瀬川 拓郎 氏（札幌大学 教授）



第2部 世界遺産登録をめざす遺跡の報告 (15:00~16:20)

- ①「遺跡が語る縄文人の暮らしと文化」
是川石器時代遺跡（青森県）
市川 健夫 氏（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館）
- ②「ストーンサークルが語る縄文人の精神文化」
大湯環状列石（秋田県）
赤坂 朋美 氏（鹿角市教育委員会）
- ③「盛土遺構が語る縄文人の祭祀文化」
垣ノ島遺跡（北海道）
福田 裕二 氏（函館市教育委員会）
- ④「土屋根住居が語る縄文人の生活文化」
御所野遺跡（岩手県）
菅野 紀子 氏（御所野縄文博物館）



一戸町・御所野遺跡
の世界文化遺産登録
推進イメージキャラ
クター「ごしょどん」

報告(13:30~13:50)

「世界文化遺産推薦
の経緯と今後の展望」
佐藤 嘉広（岩手県文化振興課
世界遺産担当課長）

主催 縄文遺跡群世界遺産登録推進本部
共催 岩手県 岩手県教育委員会 一戸町教育委員会
後援 岩手日報社 デーリー東北新聞社 岩手県文化財愛護協会
公益財団法人岩手県文化振興事業団 岩手県立博物館友の会
御所野遺跡世界遺産登録推進協議会 御所野遺跡ボランティア連絡協議会
お問合せ先 岩手県文化スポーツ部文化振興課 TEL 019-629-6488 FAX 019-629-6484



「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録推進フォーラム

世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」が津軽海峡をはさんで長期間共通の特徴を持ち続け、縄文文化の中でもきわだった地域を形成していたことを明らかにします。

基調講演

「縄文は生きている ～日本列島人の精神文化の源流」

1万年続いた縄文文化を特徴づけているのは「心」にまつわるモノです。その「心の文明」を考古学・神話伝説・民俗誌からアプローチしていきます。縄文の精神文化は、今なお生きているのです。



●瀬川 拓郎 氏
(札幌大学 教授)

1958年北海道札幌市生まれ。岡山大学法文学部史学科卒業。旭川市博物館学芸員、旭川市博物館館長を経て現在、札幌大学教授。

『アイヌ学入門』（講談社現代新書、2015）で第3回古代歴史文化賞を受賞。他に『縄文の思想』（講談社現代新書、2017）等の著書がある。

報告する遺跡

① 是川石器時代遺跡(青森県八戸市)

堀田遺跡（縄文時代中期）、一王寺遺跡（縄文時代前～中期）、中居遺跡（縄文時代晩期）の総称で、中でも中居遺跡は亀ヶ岡文化を代表する遺跡の一つです。中居遺跡の低湿地の捨て場からはトチ・クルミの木の実や獣骨・魚骨、貝類などが大量に出土しています。また優れた漆工芸技術を示す道具も多く出土しています。

③ 垣ノ島遺跡(北海道函館市)

海岸段丘上に立地する縄文時代早期～後期後半までの約六千年もの長期にわたる定住を示す集落遺跡です。隣接する遺跡から世界最古の漆製品が出土しており、ほぼ同時期の住居も見つかっています。また190m以上におよぶ「コ」の字形の盛土遺構は国内最大規模であり、「送り場」など祭祀・儀礼の場と考えられます。

② 大湯環状列石(秋田県鹿角市)

遺跡の中心に2つの環状列石があり、それを取り囲むように掘立柱建物跡や土坑・貯蔵穴が同心円状に広がります。2つの環状列石の中心と遺跡内の日時計状組石は一直線に並び、夏至の日没方向を指しており、太陽の運行を意識していたことが伺えます。土偶や石棒などマツリと祈りの精神文化を示す道具も多く出土しています。

④ 御所野遺跡(岩手県一戸町)

馬淵川東岸の河岸段丘上に広がる縄文時代後半の大規模集落遺跡です。中央広場に配石遺構を伴う墓地が造られ、それを囲んで竪穴建物跡、掘立柱建物跡、祭祀に伴う盛土遺構が広がり、長期間の定住生活を示す遺構が広がっています。竪穴建物跡は土屋根構造だったことも調査の結果明らかとなっており、顕著な特徴です。

会場へのアクセス

徒歩 盛岡駅から盛岡城跡公園方向に1.2km(15分)。

バス JR盛岡駅16番バス停「でんでんむし」左回り線。「盛岡城跡公園」下車(乗車10分)

車 施設の駐車場収容台数が限られています。周辺の民営駐車場などをご利用ください。

